

令和元年度 学校評価の集約と課題について

訪問教育部 施設関係

(1) 回収率 93% (昨年度95%)

(2) 評定について

全体の平均点 3.7P (昨年度3.5P)

(3) 今年度の評価

①結果

1 本校からの情報や連絡は、十分に伝わっていると感じますか。	3.7
2 学習を進めるに当たって、十分な説明や話し合いができていますか。	3.6
3 連絡協議会や担当者会議・ケース会議などで、十分に意見が交換されていますか。	3.6
4 小中学部と高等部の校舎が別になりましたが、施設との十分な連絡調整ができていますか。	3.7
5 児童生徒一人一人を大切にしている授業を行っていると思いますか。	3.9
6 登校学習や行事などは、効果的に実施されたと思いますか。	3.7

②自由記述から

- ・学習活動については、児童生徒は学校生活を楽しみにしており、笑顔が増えている。児童生徒の体調等に配慮しながら、本人に合った学習が行われているなど、概ね好意的な評価を頂いた。
- ・口頭での引き継ぎや連絡ノートで、児童生徒の学習の様子や成長を知ることができて良かったという意見を多く頂いた。
- ・高等部については、今年度から学校職員がリハビリの場面を見学したり、PTが授業参観したりする機会を設定したことが良かったという意見を頂いた。
- ・児童生徒の呼称について、「さん」付けの呼称を徹底してもらいたいという意見を頂いた。

●結果より (令和元年度 学校反省)

- ・今後も児童生徒の実態やニーズを把握し、授業内容の工夫改善を図っていきます。
- ・今後も児童生徒の学習の様子についての情報交換を密に行うように心掛けていきます。また、次年度もリハビリ見学の機会を設定します。
- ・児童生徒に対する接し方や呼称などに注意し、専門性の向上を図っていきます。
- ・今後も学齢超過者については、健康状態について施設と引き継ぎを密にしながら授業を進めます。